

令和3年度 第2回米沢市SDGs推進協議会 会議録

1 日 時 令和3年8月19日（木）午後3時～

2 場 所 庁議室

3 出席委員

委員 副市長（会長）、伊藤優子副会長、安部里美委員、伊藤浩志委員、
五百川満委員、大和田浩子委員、川野敬太郎委員、菅野紀生委員、
斎藤美綺委員、佐々木恵委員、須藤英喜委員、曾根伸之委員、
田畑広志委員、中川浩一委員、中澤未美子委員、吉田正幸委員、
四柳徹也委員 以上17名
（香坂洋平委員、柴田英孝委員は欠席）

アドバイザー 谷中修吾先生（オンライン出席）

事務局 企画調整部長、政策企画課 課長、課長補佐、企画調整主査、担当

4 会議録

（1）開会

（2）会長あいさつ（要旨）

会 長 米沢市内でも新型コロナウイルスに感染する人が少し出てきて心配している。早く何とか普通の状況に戻りたいと思っている。

事前に何名かの委員の方から貴重なご意見ご指摘、ご示唆をいただいている。

ご意見を拝見し、私たち事務局側には考えつかないようなことが委員の中から出てきていると感じている。皆さん思ったところを率直にぶつけていただき、疑問に思ったらどんなことでも構わないので、ご質問やご意見をいただきたい。

何とか会議を活性化していきたい。会議を活性化するには、参加者が自分の意見に責任を持たないことだそう。自分の意見に責任持たなくていいのでいろんなことを仰っていただきたい。そうすると、何か突き抜けた提案や考えが出てくると思っている。

（3）アドバイザーあいさつ（要旨）

アドバイザー 今、ちょうど内閣府及び環境省より採択を受けた事業が進んでいると思うが、今後全国各地からいろんな動きが出てくる中で、米沢のオンリーワン、米沢ならではの、米沢市しかできないこと、というところでワクワクするアイデアが飛び出すといいなと思っている。

委員自己紹介（第1回推進協議会欠席委員）

（委員自己紹介）

（4）議事（要旨）

（設置要綱第7条により、会長が議長となり進行）

会 長 それでは議事に入る。本日の会議については1時間ほどで終了したいので、

議事の運営につきまして委員の皆さんのご協力をお願いしたい。

事務局 委員 ((1) SDGs 未来都市計画書 (案) について資料 1・参考資料に基づいて説明)
回答を見ると、あくまでも TEAM NEXT YONEZAWA (以下 TNY と表記) と SDGs のプラットフォームを別立てでと認識したが、TNY の延長にあるのは、米沢品質のアワードという取組があり、そこで TNY の対象を決めるような活動を戦略でしている。その審査基準というのは、SDGs という言葉こそないものの、自分の企業が 10 年後どうなりたいか、米沢市にどういう貢献ができるかという、まさに持続可能なまちづくりという視点も入っている。

プラットフォームを作るにしても、独立して二つを作るというようなイメージなのか、ブランド戦略の中の部門として SDGs も入るのかということ、協議をしていただきたい。また SDGs 委員の中には、米沢ブランド戦略会議の委員の方も多いため、意見をもう一度聞いていただきながら、谷中先生にご指導いただきたい。

事務局 TNY との違いは以前から指摘されており、庁内内部でも議論し、また議会からもご意見をいただいている。(TNY と米沢市 SDGs プラットフォームについて) 重複する部分が出てくるかと思っている。ブランド戦略については、挑戦と創造、米沢品質向上ということで、さらに極みを突き詰めていくような、そういう取組が多いかと感じている。SDGs プラットフォームでは、それぞれの分野で、本当に小さなことでもいいので市民の方に取り組んでいただき、他の方が参考にできるようなものを紹介していくようなプラットフォームを構築していきたいと考えている。ブランド戦略と重複する部分は出てくるかと考えているが、ブランド戦略と連携して、SDGs の考え方をそれぞれ市民の方が熟知していただければ、この米沢が本当に持続可能なまちになっていくと思っているので、そのような視点で進めていきたい。

委員 TNY のメンバーの方は、この SDGs と両方関わっている方はどのくらいいるのか。(※ブランド戦略会議委員を兼任している委員：安部委員、伊藤浩志委員、五百川委員、柴田委員、中川委員の 5 名)。

どちらも同じような流れなので、どちらかでもいいのではないかと思うのはわかる気がする。

ただ、今は SDGs のことを考えている中で、市民が入りやすい入口がないと自分事として考えてもらえないと思う。他人事とならずになるべく市民が入りやすいような活動を紹介していくのが理想ではないかと思う。市民がそこに参加したいという気持ちがついてくることのできるかというところが大事かと思う。

委員 今プラットフォームについての色々なご意見を聞き、次の議題のプラットフォームのときに話をしようかと思っていたが、この流れでお話しさせていただきたい。

そもそも登録制度にするかどうかという話がまず 1 点出てくると思う。TNY は登録制で進んでおり、また新たに SDGs プラットフォームを後から立ち上げ

と思うが、そもそも SDGs で誰 1 人取り残さないとあるが、登録制にするのはどうなのかまず一つ疑問としてある。さらに、先ほどの説明のように本当に少しのことでも皆さんの好事例を表彰できればいいという説明であったが、それなら、登録制にしなくてもいいのではと単純に思ったところ。ハードルを下げるような感じが SDGs プラットフォームの事業で、どういうふうにハードルを下げて皆さんに親和性というか親近感が湧くような事業をプラットフォームで行うかというところを議題に挙げてそちらをブラッシュアップしていった方が、登録制にするよりはハードルを下げて市民の皆さんに SDGs に対して親近感を持っていただけるのではないかと思う。

事務局 ブランド戦略の TNY の団体については、覚書をして SDGs のプラットフォームにご参加いただけるような答えをいただければ、入っていただきたいと思っている。もちろん SDGs の取組をしているというのが前提であるが、その点も含めご相談させていただきたい。登録しなくてもいいのではないかという意見については、この協議会で色々なご意見をいただければと思ったところ。

(登録制度、表彰制度について、) まずプラットフォームに登録することで、SDGs の取組をしているという実感が湧くのではないかと考えたところが一つにある。また、表彰することについては、やはり人間は何か取組をする際には、インセンティブやモチベーションを上げるようなものが必要かなということ考えているが、この点についても協議会でご意見をいただいてブラッシュアップしていければと思っている。

アドバイザー 今の段階で何か確定的なコメントはないが、先ほど皆さんからご指摘あった通り、やはり市民の皆さんと一緒にやっていくということがベースになっていると思うので、楽しくみんなが入りやすくしていくのがいいかと思う。一方で私もこのブランド戦略の立ち上げの趣旨は、資料上からでしか把握していないが、SDGs というものを最初から意識して参加している方と、米沢ブランド、米沢品質ということに共感して参加している方と色々いるのかなと察している。従って、こちらの SDGs のプラットフォームに入ってくださいという依頼というよりは、一緒に楽しくやってみましょうというお誘いというようにして、一緒に楽しくできるといいと思っている。ただプラットフォームの在り方としてどういう定義にするかは、共通の認識を持った方がいいと思うので、それはこの後の議題かなと思う。

委員 委員意見に対する事務局からの回答についてコメントさせていただきたい。

食塩摂取量について、塩分と食塩はイコールではないかという意見に対し、事務局の回答で塩分摂取量に統一するということが、食塩と塩分は違う。厚生労働省で日本人の食事摂取基準というものを出しているが、そこで食塩と塩分を同じ意味で使ってはダメだとしている。塩分の中には、食塩、つまり塩化ナトリウムが入るけれども、それ以外に硫酸マグネシウムのような、食塩以外の物質も入る。今は高血圧の問題なので、健康上問題なのは、ナトリウムつまり食塩が問題になっている。13 ページの表中、全国調査と、山形県の県民調査の方は、食事調査をしてそこから食塩摂取量を算出しているというこ

となので、これを塩分摂取量に書き換えることはできないと思う。

事務局
会長

(後ほど確認の上修正させていただくこととした)

資料1の5ページ、回答の中で、助動詞が三つ続いているので「鷹山公の藩政改革に倣った健康長寿への取組」と訂正した方がいいと思う。

委員

楽しんでみんなが参加するということで、私は、米沢品質ということからウェブサイト、自分たちの活動やイベントなどを、頻繁に更新していたが、なかなか市民の方からの意見やコメントが少なく、参加しにくいのかもというイメージがある。例えばこのラッピングバスだが、もし走るのであれば、「米沢でSDGsバス見たよ」というようなハッシュタグを、SNS上でみんなに発信してもらうなど、もう少しSNSを利用してアピールするなど、発信することが必要だと思う。

企業の取組とはどうしても分けて考えてしまう部分があるのかと感じていて、企業の取組でもあるけど、その企業の中にも、個々で働いているその個人の力が、もう少しこのSDGsの取組などを、自分たちでも発信しようという考え方を伝えて、みんなが行動できるようになればいいと強く思う。簡単に取り組めるような、ツイッターやインスタグラムなどのSNSを利用して、やってみてもいいのではないかな。

会長

バスの話が出たが、ラッピングバスということで委員から出していただいたが、こういう見せ方が大事なのだろうと感じた。ねこバスということで市民バスも愛されているのと同じで、最近、米沢中央高のバスが、バスの側面に部活動で活躍するイラストがあって、非常に目につくいい方法だと思う。また委員から、メディア、いわゆる動画を使った発信という提案もあり、そういうところをどんどん使わせていただいて、みんなでするところにつなげていかなければならないと思う。ちょうどこのSDGs未来都市計画にも、市民総参加というように書いてあるので、この市民総参加を実現するために、どんなことをしていくかどんなプラットフォームを作るかということが大事になってくるのだろうと思う。

事務局
委員

((2) SDGsプラットフォーム(案)について資料2に基づいて説明)

このプラットフォームだが、先ほどから色々な意見が出ている中で、このSDGsは市民総参加で行うということなので、ベースのプラットフォームはある意味市民が、一人一人参加するということにあって、事業所で、市民の方が働く場の中でも、検討するというか、考えていくというような形になると思う。そうすると、かなり大きくなり、総花的になってしまわないかと少し懸念がある。その中で、さっき委員が言ったように、TNYは180団体も入っているので、うまく利用し、プラットフォームはプラットフォームで、当然作らなければならないが、そこを引っ張っていくというか、リードしていき、表彰制度をするとなった場合でも、総花的なものではなかなか表彰する団体や事業所を選定するのは難しいと思うので、ある程度プラットフォームの、ベースとなる数というか、そのところもある程度目標において取り組むべきなのではないかと思

っている。その中で、TNY は、業種や学校などによって濃淡があるので、濃淡の弱い部分については、きちんと TNY でも強化しなければならないが、このSDGs の機会に、そこに参加してもらって進めれば、お互いに相乗効果があつていいと思っている。せつかく SDGs を米沢市で取り組むので、総花的になって、具体的なものが見えなくなならないように、みんなが見える、取り組んでいるところが理解できるような形のプラットフォームに作り上げていただければありがたいというのが一つだ。もう一つは、毎年東北で、未来都市サミット開かれるということだが、具体的にどこで開かれるのか、米沢がそれを主導するようなことがあるのかお聞きしたい。

事務局

まさに1点目の委員からご指摘いただいたところは、少し悩んでいるところ。SDGs の、誰1人残さないというところで、様々な取組の中で、濃淡があると仰ったが、どこまでそこをつけたらいいかというところを少し悩んでいたところだ。厳しい審査基準を設けた表彰制度もあるかと思うが、この資料に記載しているものについては、もう少し気軽な形の表彰制度を考えていた。これもご相談になるが、協議会で取組を審査していただき、例えば、「〇〇委員賞」など、個々の委員の方が良いと思ったものを表彰するなど、皆さんが気軽に応募いただけるようなものをイメージしていたところ。ただ、今仰った通り、どこまで本当に皆さん応募していただけるかだが、数が多くなってきたり、総花的な部分になってきたりという部分があるかと思うので、その点については、少しブランド戦略の方の考え方とも少しすり合わせしながら、より良いものを作っていければと思う。今明確な答えになっていないかもしれないが、さらにそういう部分を精査しながら、このプラットフォームについては、今日の協議会の方で委員の方からの意見も聞きながら、来年度に向けて作っていきたいと考えている。

2点目のサミットについては、東北地方でこの未来都市に選定されている都市が、幾つかある。県内では、飯豊町、鶴岡市に続き、米沢市の3番目ということで、そういった未来都市で連携して色々な取組をするものがある。ただ今コロナ禍で昨年度、今年度も実施されないという状況があるが、未来都市に選定されたということは、それだけ国の方から SDGs の取組が評価されたということなので、他市町村と連携してさらに米沢市の SDGs を進化させていきたいと考えている。

委員

現時点では要は米沢市が、国から認められたとなっていると思うが、このプラットフォームをいかに作り上げるかというところが、成功の鍵を握っていると私も個人的に思っている。そこを、明確にわかりやすくやることが非常に大事だ。誰1人取り残さないというところは当然だが、SDGs で米沢市が先駆的な役割をしなければならないというところも一つあるので、それを両立させるのは、言葉でいうのは簡単だが、実際には難しいかもしれない。そこをできるような形にしていく、SDGs を真剣に取り組んでいる会社、学校も含めて結構たくさんあるので、そこに先導してもらいながら、市民全員が参加するとか、みんなが意識を改革できるようなそんな形に持っていければ、市民総参加という形

が作り上げられるのではないかと個人的には思っている。

委員 質問になってしまうかもしれないが、登録をする際の、明らかにこの活動はSDGsには当てはまらない可能性のものもあると思うのだが、その登録の段階で弾かれてしまうということが可能性としてあるのかどうか、あるのであれば、SDGsの活動に値するというような定義を設けて、それを表示する予定があるのかどうか。

事務局 明確なものはこれからになるが、まずはこの17の目標ゴールに沿ったものなのかが一番前提にあるかと思っている。それに沿ってないものについては、弾くと言うか、登録にはならないものと考えている。基準について厳密に設けるかどうかについては、先ほど申し上げた通り、広く入っていただきたいという考えがある一方で、総花的なものになってしまう可能性もあるので、それについては、様々な意見を踏まえて事務局の中で検討し、決めていきたい。

委員 TNYの180団体の活動がすでにある中で、SDGsに当てはまる好事例というのは必ずあるわけなので、そちらを先行してプラットフォームに載せていただいて、こういうことが当てはまるということを提示していただくと、応募しやすくなるかと思う。表彰してから、好事例を紹介するというのとは逆になるかもしれないが、先行してTNYの好事例を載せるというやり方もありなのかなと感じた。

委員 広く間口を広げて、市民の方に関わっていただけるようなプラットフォームづくりとその運営の話があった一方で、先ほどから何回もテーマになっているTNYの枠組というものもあるので、すでにやっている取組について、表彰するというのはもちろんだが、自分たちの強みを生かすことのできるSDGsのターゲットを特定し、その後領域に集中的に当たって行けるようなことが、このプラットフォームで、自分たちの団体が気づくことができれば、企業なり団体、学校なり病院としても、付加価値を向上することができると思う。全体的なターゲット目標が米沢市としてはあると思うが、登録されている個人や団体に対して、こうするとさらにいいのではないかとというようなサポートも受けることができるプラットフォームも考えているのか。

事務局 先ほど資料の説明の中でもあった通り、それぞれの分野で、交流の場を設けたいと考えている。例えばご意見があったその企業に対するサポートという部分で、今お聞きしていて、私ども行政がどこまでできるのか感じたところだ。ただ、あくまでもSDGsのプラットフォームなので、SDGsに色々な企業団体、また個人の方、参加していただきたいと考えているが、例えば他の取組ではこういうことを行っているなど、サポートとして情報提供などができるのではと考えている。

色々なご意見あるかと思うが、ブランド戦略は、本当に企業や団体が、品質向上ということで高みを極めていく部分があるかと思うが、SDGsについては、例えば、学校の児童や生徒の取組であるなど、考えも本当に大切だと思っている。小さい頃から、SDGsの考えを身につけて、成長していくに従ってさらに身につけていきこのまちを良くしていく、そういったところを一番に考えている

ところなので、プラットフォームの立ち上げから 100%で発進できるかどうか不安はあるが、まずは発進して、情報提供や交流の場を設けて、さらにプラットフォームを進化させていける体制を構築していきたいと考えている。

委員 先ほど、TNY の方は、品質向上ブランディング化を目的というか、それを主として行って、これを評価していくというか高めていくという取組が TNY で、SDGs のプラットフォームとしてはまた少しハードル下げてというご説明だったと思う。そもそも SDGs は、仕事をしていれば、その会社は何かしらのターゲットに繋がるわけで社業がもう SDGs の中の何かのゴールだ。それを考えると、仕事をしているその会社はもう SDGs に何かしらコミットしていることになる。それを表現していくツールとして SDGs のゴールのターゲットというのは、自分の社業はこうした社会貢献できているという自他ともというか、インサイドデザイン・アウトサイドデザインのツールとして SDGs は使えるものだと思っっている。その考え方を、まずは、皆さんに知ってもらうことが第一歩なのではないか。

また、小中学生の子供たちに関してだが、この前新聞に、小学生の寄稿文が載っていた。学校でペットボトルのキャップ集めを日常的にやっていた。SDGs の勉強会が授業であった時、そこで、私たちが今までペットボトルキャップ集めをしていたことが SDGs だったと気づいたという。つまりそういうことだと思う。常に日常にあること、日常で生活していること、大人たちだったら会社で働いていることが全部 SDGs にもうすでにコミットしている中で、それをまづもって表彰するはどうかと少し思うところがある。そこからプラットフォームの活動内容の方にもなってくるが、それこそ回答でいただいた地域循環共生圏に紐づけながら、プラットフォームのワークショップをやりたいという意見、回答があったと思うが、そちらをメインでやりながら、表彰や登録というよりは、もう少し視野を広げてみて、先生が仰るように楽しく SDGs を学ぶとか取り組み、そこから自分たちの日常とは SDGs だったのだと気づいてもらう一段階目で必要かと思う。また、SDGs の数はボランティア活動ではなく、改めて SDGs のカードゲームを思い出してみると、勝ち負けはないがいかにか利益を上げたかどうか重要視されており、持続可能というのは、実はお金が必要なのだということや、金融機関もあって、幾ら投資してもらうというルールがある中で行うものだ。話が前後してしまったが、表彰する、好事例を集める、そのためのプラットフォームを作るというその前提が少しイメージと違うと感じる。TNY はその評価対象がきちんとあるわけで、ブランディングだとか、先進的な新しい取組をやっているなど、ある程度の評価対象がある中で表彰しているのと、SDGs のプラットフォームの表彰を差別化したいという説明を受けた時に、それは難しいのかなと思った。

会長 事務局の方にて、今のご意見などを参考に、次回の会議の折に、委員の皆様がいいと思った取組を表彰するにあたっての評価基準が、もう少し具体的になるとよい。おそらく市民総参加であれば、来たものについてそれがたとえ SDGs でないものだったとしても、そういう言い方はせず、こうすれば SDGs に近づ

くというような支援が事務局の方であると思うが、とにかく多くの市民の方に参加していただくという大前提で動いていかないとならない。表彰ももしかしたら本当は全員表彰しなければいけないのかもしれない。特別目立ったSDGsというのはどういうものだろう、という辺りもぜひ、事務局の方で考えていただき次回提案をお願いしたい。

(3) 事例紹介

田畑委員 (田畑委員より米沢市立第六中学校でのSDGsに関する取組事例紹介)

本校では、SDGsの視点を取り入れた生徒活動ということで、今年度実施をしているところだ。日常生活の中では、専門委員といい、生活委員や給食委員会など、そういう仕事を行っている。例えば、生活委員の方では、節電の取組をしているが、それに対して、SDGsの17のゴールのうちどれに関連するかということ、子供たちでしっかり明確にして、取り組んでいる。キャッチフレーズをつけて、ステッカーを作って掲示するということもしている。例えば「節電で世界を救おう」と書いて、ゴールの7番の「エネルギーをみんなにそして国に」というロゴをつけて貼るということで、子供たちが各自の仕事が、どのゴールに関連してやっているのかということ意識しながら取り組んでいる。さらに、ペットボトルキャップの回収をしたり、コンタクトレンズのケースの回収をしたりなど、CO₂の削減や、世界の医療支援に貢献しているということもこれまでやっていた。これもゴールと結びつけることによって、実際に回収率も、目的意識を持ったということで、例年よりも多くなっている。そんな形で効果が上がっているのだと思っているところだ。

今(各委員の)お手元に回るようにしたが、新聞のエコバッグを全校生で作成した。これも脱プラスチックや、CO₂の削減になるわけだが、これを地域のコミセンや、店舗の方に置いていただいて、必要な方に持ち帰って使っていただく取組をした。さらに、春先には、校区のクリーン作戦を行った。これも海の豊かさを守るという目標のもと実施したところだ。このエコバッグは、子供たちが、地域にぜひ、このSDGsの取組を発信したいという思いで、何をしたらいいかと自分たちで考えて、全校生でエコバッグを作って、発信しようと思いついた。クリーン作戦を行った時は、多くのごみがあり、子どもたちは、そのゴミの状況などをお便りにして、地区のコミセンを通して発信をさせていただいて、その窮状を訴えることをした。年間計画では春先1回だったが、子どもたちが秋にもう1回したいということで、それに応えて、学校としても計画しようと思いついているところだ。

実際に子どもたちは様々な取組をしているわけだが、やはり大事なものは、何かやってそれで終わってしまうのではなく、取組を通して子どもたちがどういう考えをしたのか、それが将来の自分の人格形成など、そういうところにつなげていく必要があると思っている。未来を見据えて、自分たちで、次にどういう活動していけばいいのかということ、新たに考えていくような、そういう活動を大事にしながら本校では活動している。

委員 ぜひ裏に作り方を付けていただけると活動が広がるので検討いただきたい。

5 その他

事務局 (その他として、9/1号広報掲載、次回の第3回推進協議会の日程調整について、米沢市SDGs未来都市計画(案)パブリックコメントの周知依頼について、9月19日開催の「米沢カンファレンス2021」について、委員への説明及び依頼を行った。)

谷中先生よりコメントをいただいた。

アドバイザー 皆さんとご一緒させていただき討議の方しっかり聞かせていただいた。最後、今日の討議と少し関連するかと思うので、少しだけ環境省の方で今進めているところで、皆さんの今日の討議と重なる参考情報を用意した。

プラットフォームとはカタカナだが、一言で言うと、米沢市でSDGsを実践している団体がつながる場なのだろう。それがSDGsを目的としている団体というのではなく、あくまで結果としてSDGsを実践しているというのが自然だ。もともと自然との共存共生など、そういうことを目指してやってきたということであれば、別にSDGsのためにというよりは、普段やっていることがたまたまSDGsである、という方が近いかもしれない。今やっていることをSDGsの文脈に紡いであげるといふ言いの方が多分正しいかと思う。従ってプラットフォームでたくさんの方がつながる場になると大変良いと思うが、初期的にはやはり率先的に実践している団体というのは、先ほどの総花的な話という切り口もあったが、まずは意識を持ってやっている方中心に広げていくところは、正攻法としてはやりやすいと思う。そうすると目的の方も極めてシンプルで、基本的にはSDGsに取り組んでいる団体が相互に繋がっている状態を作ることが、基本的な目的だと思う。もう少し平坦に言うと、このSDGsは友達がたくさん作られる場である。さらに言うとそれがお互い知ることによって、相互の活動が広がっていく、結果としてそれが市としても適切な政策というものが作りやすくなる、という構造なのかと思う。どうすればこういうSDGsに取り組んでいる団体が集まるか、つながることができるかという手段の話になるわけだが、あくまでその手段の一つとして今日話があった表彰もあるし、またカンファレンスやワークショップのイベントもあるだろうし、オウンドメディアと言うが発掘して情報発信していくことだ。こういう団体がこんなことやっているということであれば、結構幅広くできる。また先ほど動画企画のコメントがあったが、動画の話もあるし、私の方は得意としているアクセラレータと言って、SDGsが関連する取組の事業成長支援を行うなども含まれるので、手段はいろいろあるというところは、ゆるめに考えられればいいのかと思う。

ただ全国的に見ていて、登録にこだわってしまうと、路頭に迷うケースが多発している事例がよく見られる。あの団体は良いとか悪いとか判断基準はどうだと、みんな取りこぼさないと言っているのに何だということがよく起こる。おすすめとして、イベントに参加した人は全て仲間と捉えるぐらいのゆるさで

も全然いいと思う。一応国に報告するときは何団体登録とか言わないといけないところもあるが、イベントに参加した人は皆さん仲間だとカウントしてしまうというやり方でもいいのではないか。目的を見失わないようにするために、みんなで繋がる場を作る、楽しくやっていくというところさえぶれなければ、手段は何でもいいのかと思っており、米沢の皆さんが一番やりやすい形というのが見えてくるといいのではないかと思う。

最後に、具体化の実例として、私の地元の静岡県にて、県単位で私自身が総合プロデュースし全国初で今年スタートした、県内の未来を作る環境ビジネスを表彰するという SDGs ビジネスアワードについて紹介する。県の主催ではあるがこれが初期的なプラットフォームの団体として、地元の地銀、信金などいろいろな企業が多数名を連ねて、協力パートナーになり表彰する。県知事賞なども出すが、応募してメンタリングして成果発表会、という単なる表彰だけではなく、事業成長支援まで行うこともやっている。認知を得て広げていくということも、プラットフォームの手法の一つということになる。これは県であるが、県の主催で、プロフェッショナルの方々がこういうところに集いながら事業成長支援を行うというようなプロジェクトである。

もう一つは、国の方で9年間ずっとグッドライフアワードをやっている。SDGs な取組を表彰する制度である。

今回米沢市が独自の〇〇賞というものを作って表彰し、それによって自由度も高く多様性が生まれるので、1年間で40、50の団体を表彰する。あくまでこれは、受賞者ということで全部リスト化すると見える化できるので、米沢の中でもこんなにたくさんあるのだという、一つのデータベースができてしまう。結果として、戦略を作りやすくなるというそういう効果はあると思う。面白おかしくやっていくといいのかなと、聞いていて思った。

事務局 協議会委員が SDGs カンファレンスに参加を希望される場合、通常の募集もしくは事務局に直接ご連絡いただいてもいいので、ぜひご参加いただきたい。

6 閉会

以上